

(別紙3)

和歌山県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告  
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	夜間銃猟における効果的な誘引方法
実証地域	田辺市木守地区
実証時期	令和2年11月～令和3年2月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

(令和元年度捕獲状況) 令和元年度事業では、射撃ポイントへの誘引数が少なく、県内で65頭捕獲と目標を下回る結果となった。 (課題) 射撃ポイントへのニホンジカの誘引数が少なく、1回実施あたりの捕獲機会が少ないこと。
--

3 地域実証する技術の概要

夜間銃猟では、射撃ポイントにニホンジカを餌で誘引し捕獲を行うが、誘引される個体数が多ければ、捕獲機会が増え捕獲数も向上すると考えられる。 そのため、餌付けを行う射撃ポイント周囲にトレイルカメラを設置し、ニホンジカの密度、出没状況、動向を把握することで効果的な誘引場所や誘引方法を検討する。 そして、ニホンジカを広範囲から射撃ポイントの餌場に誘引することで、発砲機会の増加を図り、捕獲数の向上につなげる。
---

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

<b>【方法及び内容】</b> 餌場を設置し、そこへニホンジカが何頭誘引されているか、どの程度の頻度で出没しているか（毎日や2～3日に1回など）、どこから餌場に出没しているか（崖下から餌場に上ってくるのか）等をトレイルカメラで把握し、誘引のための餌の置き場や誘引しやすい場所や餌付けの回数や時間等を検討する。  ① 射撃ポイントの一つ（④番）において、周囲にトレイルカメラを設置（11月11日） ② カメラのデータを2週間に1回程度の割合で回収し、出没状況等を把握 ③ 餌付けは射撃ポイント（④番）の平地に11月24日から開始し、2～4日に1回の割合で実施。 12月23日以降、餌付け場所を近くの平地にもう1カ所増やし、2カ所とした。 餌撒きは11時～14時の間に行った。
---

## 【結果及び評価等】

### 1. 結果

- ・ 餌付け後のシカの 1 日当たりの出沒数（延べ頭数）は、餌付け前に比べ大幅に増加した。（餌付け前：約 1.6 頭／日、餌付け後：約 9.0 頭／日）
- ・ 餌付け開始後は、ほぼ毎日 1 頭以上のシカが餌場に出沒していた。
- ・ 出沒の時間帯は、ほぼ夜間に出沒していた。（17:00～7:00 の出沒：約 94%）
- ・ 餌付け場所を 1 ヲ所から 2 ヲ所に増やしたが、出沒数に大きな変化は見られなかった。（1 ヲ所：約 9.2 頭／日、2 ヲ所：約 10.0 頭／日）
- ・ 捕獲実施日の出沒数は、平均 5 頭と全体の平均 9 頭に比べ低かった。
- ・ 捕獲実施日の実施時間帯（18 時～22 時）の出沒率は、平均 20%と全体の平均 35%に比べ低かった。

### 2. 評価

- ・ 餌付け場所を増やしたが、近くであったため同じ個体が行き来しており、新たな個体の誘引にはつながらなかった。
- ・ トレイルカメラにより、餌付け場所付近の山側からシカが降りてきているのが確認された。それ以外の場所からもシカが誘引されていたため、餌付けにより複数の場所から誘引されていることが分かった。
- ・ 捕獲実施日にシカの出沒数が少なくなったのは、捕獲車両の音等によりシカが警戒し、出沒が減少したためと考えられた。

### 3. 今後の実施方針

- ・ 捕獲車両の音等によるシカの出沒低下を防ぐため、音響装置を活用した効果的な捕獲方法を検討する。
- ・ より適した捕獲時期を検討するため、事業の開始時期を早め、シカの出沒状況等を確認する。

注 1：2 の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告においては、注 1 を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

## 5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。